

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	中国語と日本語の対照的研究：擬音語と擬態語について
Author(s)	聶, 端麟
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1994 : 11 - 24
Issue Date	1995-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039357
Right	
Relation	



中国語と日本語の対照的研究 — 擬音語と擬態語について —

高 瑞麟

緒言

中国人も日本人も、日常の会話や文章で、それほど深く意識せずに、或いは、意識して擬音語・擬態語を使っている。何かの音や状態・状況・様子などについて話したり、書いたりする場合には、しばしば使われるのが普通である。

一般に、擬音語とは、人間または人間以外の生物の発する声や音、また、自然界に自然に発する音響や、無生物が自然に、あるいは、外力の作用を受けて発する音響を、言声で表現した言葉である。それに対して、擬態語とは、人間を含む生物、無生物、自然界の事物の現象・変化・動き・成長などの状態・様子を描写的・象徴的に音声で表現したものである。但し、擬音語と擬態語とは、このように一応は区別してみたが、常に、その概念は必ずしも分明であるとは限らない。そして、話題・内容によって、時と場合によって、また、人によって、その使い方に、多少の差がある。また、擬音語と擬態語の間には、明確な線を引くことがむずかしいとされる。

小論は、日本語の擬音語・擬態語の特質を理解する一環として、翻訳作業を通じ、中国語と対照分析を行うことによって、その類似表現に焦点を当て、使用上の差異を浮き彫りにする初歩的研究を試みたものである。

ボタンに分ける実例の対照

ここでは、とりあえず“人間”と“自然”の通りに大別して考察する。

I. 人間

I-1. 歩く (walk)

- 姉は、私に気づかずにすたすたと通り過ぎていった。 / ○ 急歩。三歩并做兩歩。
- 祖母は健康のため、毎日てくてく歩いて買い物に行く。 / ○ 一歩一歩地。

(2)

- 試合に負けた少年たちは、とぼとぼと歩いていった。／○無精打彩。有气無力。
- ひまだったから原宿をぶらぶら歩いてきた。／○瀟灑。信歩。隨便走。
- マラソン大会を終えて、息子がよたよたと帰ってきた。／○脚根不穩。搖搖晃晃。

I-2. 見る (to look at)

- 東京できょろきょろしながら歩いていると、田舎者だと思われる。／○(慌慌張張地) 東張西望。賊眉鼠眼四下看。
- 彼はゴッホの絵をじっと見つづけた。／○目不轉睛。一動不動。一声不響。
- どうしてそんなにじろじろ見るの？何かついてる？／○(不客气地) 直叮叮(看)。
- [先生が生徒に]人の答えをちらちら見るんじゃない。／○若有若无。時隱時現。恍恍惚惚。
- [事故を見た人が]私は逃げていく車をちらっと見ました。／○一閃。一晃。

I-3. 眠る (sleep)

- 90歳の祖母は寝たきりで、一日中うつらうつらしているようだ。／○似睡非睡。迷迷糊糊。
- ゆうべあまり寝ていないので、授業中ついうとうとしてしまった。／○似睡非睡。迷迷糊糊。
- [子供が母親に]お父さんならソファでぐうぐう眠っているよ。／○呼呼兒地睡(得很香)。
- 母はあみかけのセーターを持ったまま、こっくりこっくりしている。／○(打瞌睡時) 上下點頭。一点一点地。
- すやすや眠っている赤ちゃんの顔は、いつまで見ても飽きない。／○安穩地(睡)。安靜地(睡)。香甜地(睡)。

I-4. 飲む (to drink)

- 暑くて食欲がなく、がぶがぶ水ばかり飲んでた。／○(喝水、酒等) 咕嚕咕嚕地。大口地。
- ふろあがりにぐっと飲むビールの味は最高だ。／○使勁。一口气。
- 酒が好きな父は毎晩コップでぐびぐびと飲む。／○(咕嚕咕嚕地) 喝酒等。
- こんなまずいジュースを、よくごくごく飲めるね。／○(咕嚕咕嚕地) 喝。
- そんなにちびちび飲んでいたら、味がわからないでしょう。／○一点一点地。

I-5. 食べる (to eat)

- どんなに空腹でも、がつつ食べるのはみっともない。／○狼吞虎咽。食得無厭。

- お見合いのときは、あまりばくばく食べない方がいい。／○(嘴)不断大張大合地大吃特吃。狼吞虎咽。
- 弟は人の家に行っても、遠慮なくむしゃむしゃ食べる。／○大口地吞食。狼吞虎咽。
- 牛はいつも口をもぐもぐさせている。／○閉着嘴嚼(様子)。含混不清地(説)。蠢動。
- もりもり食べて、夏の暑さに負けないようにしましょう。／○吃硬東西(声音)。吃得狠香。食欲旺盛。狼吞虎咽。多多地。

I-6. 言う (to talk)

- 「ガラスを割ったのは、あのう、ぼくなんです・・・」と少年はおずおずと言った。／○胆怯。提心吊胆。
- 妻は、ぼくの帰りが少しでも遅くなると、がみがみとうるさい。／○(申斥、發牢騷)嘖嘖叨叨地。令人討厭地。
- 部長は酔うとくどくど説教を始めるからいやになる。／○嘖嘖發酸。絮絮叨叨。
- あの人は何でもずけずけ言うけど、本当はやさしい人だ。／○毫不客气。倔強。不講情面。
- 日本では、最近まで、男がべらべら話すのは嫌われたものだ。／○口若懸河。滔滔不絕地(説)。

I-7. 愛している (love)

- ハワイはあつあつの新婚カップルでいっぱいだった。／○很熱。火熱。
- 二人は、酔ってくると、みんなの前でいちゃいちゃし始める。／○男女互相鬪情。
- [友達に]いくら好きでもそんなにでれでれしないで、もっとしっかりしろよ。／○傲慢。貪色。色迷迷地。
- あの二人はいつももちみたいにべたべたくっついて、仲がいいね。／○粘糊。糾纏着撒嬌。
- あのこわいじいさんが、孫にはめろめろだ。／○着迷。頹唐。言聽計从。

I-8. 体 (figure)

- ダイエットをしてがりがりになった女性は魅力がない。／○骨瘦如柴。非常用功。
- この温泉に入ると、肌がすべすべになるんだって。／○光滑。溜光水滑。滑溜。
- 彼女の髪はつやつやしていて、とてもきれいだ。／○光澤美麗。光滑。健康的顔色。紅潤。
- 彼の背広は、ひじのところがすれててかてかだ。／○光滑。溜光。發亮。
- 彼女は筋肉りゅうりゅうの男が好きらしい。／○(肌肉)隆起。昌盛。興旺。

(4)

I-9. 病気 (sickness)

- ゆうべ飲み過ぎた。頭がずきずきする。／○跳 (痛)。一跳一跳地 (痛)。
- ぞくぞくするほどすばらしい映画だったよ。／○打冷 (寒) 戦。心情激動。難以平靜。
- 足の裏がちくちくする。くつに何か入ってるのかなあ。／○針扎似地痛。刺痛。
- おいしかったけど辛かった。口の中がひりひりする。／○辣得慌。刺痛。火辣辣地痛。
- 二日酔いで、胸がむかむかする。／○悪心。要吐。作嘔。怒火上心頭。生气。
- 立ち上がると足ががくがくする。よほど熱が高いらしい。／○活動。晃蕩。顛抖。
- 頭をなぐられてがらがんしている。／○(頭) 劇痛。
- 朝から何も食べないんだ。ふらふらするよ。／○踉踉跄跄。搖搖晃晃。東倒西歪。動搖。不堅定。
- 彼は必死で怒りを押えようとしたが、手も唇もぶるぶるとふるえていた。／○發抖。
- アレルギーなので、スギの花粉がとぶ時季はいつも鼻がむずむずする。／○痒痒。急得慌。心里發痒。躍躍欲試。

I-10. 精神状態 (a mental state)

- 裁判官は、たんとと判決を読み上げた。／○清淡。淡泊。不介意。想得開。坦坦地。
- まだ起きたばかりで頭がぼうっとしていた。／○朦朧。隱約。不清楚。迷迷糊糊。
- 彼は急に英語で話しかけられ、ぼかんとした顔で相手を見た。／○張着嘴 (貌)。發呆 (貌)。
- 彼、いつもむっつりしているくせに、酒を飲むとさわぎ出すんだ。／○闕声不響。沉默塞言。不愛說話。
- 若いころは理想と現実のちがいに苦しみ、もんもんと日を送った。／○悶悶不樂。苦悶。愁悶。

I-11. 心の動き (emotions and surprise)

- 父は短気で、すぐかっとなる人だった。／○勃然大怒。發火。
- 浮気がばれたかと思って、どきどきとした。／○心跳。心怦怦跳。心突突跳。
- こわい夢を見て、はっと目を覚ました。／○突然想到。(因意外事) 吃驚。驚醒。
- 試験が無事終わってほっとした。／○放心。輕鬆 (的樣子)。
- 仕事が忙しいときに「お茶入れて」とか「コピーとって」とか言われるとむっとする。／○生气。心頭火起。(空气) 悶得慌。
- 男はひき逃げの捜査をしている刑事に呼び止められぎくっとした。／○突然吃驚。
- おもちゃのヘビが本物に見えてぎょっとした。／○吓一跳。呆若木鷄。
- 書類の山を見て、げんなりした。／○疲倦。厭膩。索然。掃興。厭倦。
- 泳ぎに行った湖が自殺の名所だと聞いてぞっとした。／○打寒戰。毛骨悚然。

- 授業中にマンガを読んでいて、ふと顔を上げると先生がいたのでびっくりした。／○吃驚。吓得一顛。吓得心都不跳。

I-12. 動作が速い・遅い (fast or slow)

- 前はもったきびきびしていたのに、あの選手も年だね。／○麻利。涑涑辣辣。
- [母が子供に]いつまでテレビ見てるの。さっさと勉強しなさい。／○迅速地。快点。
- まだ6歳なのに大学の数学の問題をすらすら解くなんて、この子は天才だ。／○流利地。顺利地。通順。輕易。
- あの旅行会社は対応がてきぱきしていて、とてもいい。／○爽利。利落。麻利。簡捷。
- 姉ははきはきしているが、妹ははずかしがりやだ。／○活潑。有朝气。干脆。爽朗。
- 私は子供のころ劣等感のかたまりで、いつもいじいじしていた。／○畏縮。打怵。
- 犯人は事件の真相をぼそぼそと語り始めた。／○嚙嚙喳喳(小声說話)。吞吞吐吐。
- 兄弟が多いので、ぼやぼやしていると、食べる物がなくなってしまう。／○發呆。
- もじもじしていないで言いたいことがあったら早く言いなさい。／○扭扭怩怩。躊躇。
- [母が子に]もたもたしていると、おいてっちゃうわよ。／○(行動・態度)不明朗。不痛快。(事物)進展緩慢。不順利。磨磨蹭蹭。

I-13. どうしよう (confused)

- 夜、公園をうろうろしているとあやまれるよ。／○徘徊。転来転去。急得乱転。
- 出産のとき、夫はおろおろするばかりだった。／○不知所措。坐立不安。嗚咽。
- サーカスの綱渡りをはらはらしながら見た。／○非常担心(的樣子)。
- 免許証を持っていなかったの、警官を見かけるたびにひやひやした。／○提心吊胆。担心。
- まごまごしていると、何もしないで人生が終わってしまう。／○張惶失措。心慌意乱。打転転。徘徊。瀟瀟連連。猶豫不絕。

I-14. 暗い (depression)

- 前の車は運転がへたで遅いから、ほんとうにいらいらする／○着急。焦躁。感覚刺痛。
- [悩んでいる友達に]くよくよするな。元気を出せ。／○煩惱。愁眉不展。想不開。
- 試合に負けてしょんぼりしている選手たちをコーチは明るくはげました。／○無精打采。有气無力。垂頭喪气。孤單。
- 部長は重大な取り引きを前に、びりびりしている。／○(因驚恐害怕)神經過敏。(痛得)火辣辣的。辣得慌。
- [父が息子に]けんかに負けたぐらいでめそめそするな。男らしくないぞ。／○低声哭泣(的樣子)。抽抽搭搭地哭。動不動就哭。愛哭。哭哭啼啼。

(6)

I-15. どんなふうにする (neatly and unwillingly)

- 会社にはきちんとしたかっこうで来るように。／○正確。不多不少。整整齊齊。有規律。規規矩矩。
- 〔同僚に〕ざっとそうじをしておいたから、あとはよろしく。／○粗略地。簡略地。大煮。大約。
- 〔先生が〕そんなに力を入れないで、さらっと歌いましょう。／○滑溜。細膩。干脆。痛快。果斷。輕脆地。
- シチューはじっくり煮込んだ方がおいしい。／○慢慢地。穩當。沈着。
- きのうのお見合いはばっちりだった。／○順利。沒問題。
- いやいや手伝うなら、手伝ってくれなくてもいい。／○無奈。勉強。不得已。不情願。
- 彼が成功したのはこつこつ努力したからだ。／○孜孜。刻苦。勤奮。
- 仲のいい友達の頼みなので、しぶしぶスピーチを引き受けた。／○勉強。
- 二人は愛し合っていたが、家族に反対されてなくなり別れた。／○一面哭一面・・・。哭哭啼啼。哭着。
- 仲間がサボっていても、彼はもくもくと働きつづけた。／○默默。不声不響。

I-16. うれしい (pleasure)

- 〔友達が〕いそいそと帰りたくをして、今日はデート？／○高高興興地。雀躍地。興沖沖地。
- あすから新しい生活が始まると思うとうきうきする。／○興致勃勃。興高采烈。
- 夏になると兄の帰省を待って、母はいつもそわそわしていたものだ。／○心慌。心神不定。坐臥不安。
- 〔面接を待っている人が〕いよいよ次はぼくの番だ。ああ、ドキドキする。／○(心)撲通撲通地跳。
- あすから三週間、海外旅行よ。わくわくするわ。／○(由于高興、期待、担心引起的)心情不平靜。緊張不安。興奮不已。

I-17. 明るい (cheerful)

- 彼女は今の仕事を始めてからいきいきしている。／○生動。活生生。生气勃勃。精神如生。(目光)炯炯。神采奕奕。
- 彼女はずっと悩んでいたが、離婚を決意して、さばさばした表情をしている。／○鬆愉快。暢快。(性格)爽朗。
- 彼はどんなにつらいときでもにこにこしている。／○笑嘻嘻。笑咪咪。微笑。
- 姪たちは北海道の牧場で育ったので、のびのびとしている。／○舒暢。悠然自得。輕

松愉快。自由自在。

- [病院へ見舞いに来た友人に] このとおり、もうびんびんだよ。/○(身体) 硬棒棒的。壮健的(様子)。跳躍的(様子)。

I-18. 不快 (discomfort)

- おれが車をぶつけたのを知って、今ごろおやじはかんかんだよ。/○勃然大怒。火冒三丈。大發雷霆。
- 恋人にふられ、やけ酒を飲んで、ぐでんぐでんになった。/○醉醺醺。酩酊大醉。
- 汗でシャツがびしょびしょだ。/○湿透。湿淋淋地。
- 若いころは二枚目俳優だった彼も晩年はよぼよぼになって見る影もなかった。/○老人等走路蹒跚。摇摇晃晃。老態龍鍾。
- 30年にも及ぶ裁判でやっと勝訴はしたけれど、もう心も体もよれよれだ。/○心身疲乏。疲憊。耗尽心力。

I-19. 変化の速度 (growth)

- [マラソン] 先頭が2位以下をぐんぐん引き離している。/○迅速。有力地。
- じりじりと景気が後退している。/○步步逼近。
- むし暑くて、部屋にじっとしているだけでじわじわと汗がにじんできた。/○慢慢地。一步步地。不断地。
- 彼は未熟児だったが、すくすく育って、今ではクラスで一番大きい。/○眼看着長。長得很快。
- 先生が変わっただけで、妹のバイオリンの腕前はめきめきと上達した。/○成長、進歩得很快的様子。顯著地。

I-20. ゆとり (margin)

- 発車時刻ぎりぎりに電車にとび乗った。/○極限。没有余地。勉強。終于。
- 彼の成績は落第すれすれだ。/○几乎。差一点。将将足。眼看就要。
- あの議員は、若いのにどうどうしている。/○儀表堂堂。舉止非凡。光明磊落(正大)堂々正々。公然。
- 月50万あればゆうゆう生活できる。/○悠々。從容不迫。不慌不忙。悠閑。悠然自得。
- あんな弱いチームにはらくらく勝てる。/○很舒服。很容易。毫不費力。很快樂。

I-21. 卑屈 (timid)

- 気の弱い生徒におどおどとした目で見られて、おこれなくなりました。/○發怯。胆怯。提心吊胆。恐惧不安。

- 親に交際を止められているので、二人はいつもこそこそ会っている。／○偷偷摸摸。
鬼鬼祟祟。
- いつつかまるかとびくびくしながら暮らすのに耐えられなくて自首しました。／○發怵。畏首畏尾。(吓得)發抖。提心吊胆。戰戰兢兢。捏着一把汗。
- 家族が医者とひそひそ話している。私はガンかもしれない。／○噤噤唯唯。悄悄地。
- 政治家は選挙のときだけべこべこして、あとは偉そうにしている。／○點頭哈腰。低
三下四。瀟灑。詭辯。非常識。

I-22. ずうずうしい (shameless)

- よくもまあ、あんなにしゃあしゃあとうそがつけるものだ。／○滿不在乎。厚着面皮。
- 警官が店にずかずかと入って来た。／○無礼貌地。魯莽地。冒冒失失。逕直。
- 学生るとき、先生の教え方が悪いなんてぬけぬけと言った自分がはずかしい。／○厚着面皮。厚顏無恥。大言不慚。
- 退職したら、いなかでのうのうと暮らしたい。／○悠閑。逍遙自在。
- 彼は、パーティーが終わるところになって、のこのこやってきた。／○滿不在乎。恬不知耻。踉蹌來遲。

I-23. 疲れた (fatigue)

- ぐずぐずしていると、電車に乗り遅れるよ。／○磨磨蹭蹭。慢慢騰騰。嗚嗚嗚嗚。嗚叨。
- 毎日遅くまで残業があって、くたくただ。／○精疲力尽。
- [妻が夫に] ごろごろしていないで、少しは手伝ってよ。／○閑着無事。游游晃晃。
- 暑くてだらだらそうじをしていたら、先生に怒られた。／○冗長。嗷嗷不休。慢吞吞。
- 朝8時から夜中の12時まで仕事をして、もうへとへとだ。／○精疲力尽。非常疲倦。

I-24. 入る (capacity)

- 雨の日の動物園はがらがらだ。／○非常空。空空蕩蕩。
- この本棚はぎちぎちで、もう1冊も入らない。／○(空間)緊。(地方)擠滿。
- 教授の頭には、文学の知識がぎっしりつまっているようだ。／○(装得)滿滿的。
- 朝の電車はぎゅうぎゅうで、息もできないほどだ。／○滿滿的。滿登登地。
- きみのかばんはいつ見てもすかさずかだね。／○空隙多的。空空的。

I-25. こわれる (broken)

- 満員電車に乗ったせいで、新しいスーツがくしゃくしゃだ。／○皺巴巴。乱糟糟。
- サッカーボールが窓に当たって、ガラスがこなごなに割れた。／○粉碎。
- 山の中で女性のばらばら死体が発見された。／○七零八落。散乱。零乱。

- 彼からの手紙をぼろぼろになるまで読み返した。／○破爛不堪。
- どろぼうに入れ、部屋をめちゃめちゃにされた。／○乱七八糟。雜亂無章。

II. 自然

自然 (weather)

- 月がこうこうと輝き、夜とは思えない明るさだ。／○(月光)皓潔。輝煌。耀眼。明亮。
- 目が覚めたときには、すでに日がさんさんと照っていた。／○(陽光)燦爛。
- しとしとと雨が降る日は、一人静かに本を読みたい。／○(雨)静靜淅淅地下。蒙蒙。
- 雪がしんしんと降っている。あすの朝までにだいぶ積もるだろう。／○(雪)飄飄地下。
- 朝から空がどんよりしている。／○(天空)陰沉沉。

形態、意味諸方面に於ける分析

I. 形態

擬声語・擬態語はその拍数によって幾つかの型に分けることができる。ここで語形の成分である各音節をX、Y、Z、Vで示し、先行音節の類音によってなる音節をX'で示して、下記の表にまとめた。

表1 形態の分布 例数(%)

形態	日本語	中国語
X っ	10 (6.66)	4 (2.66)
XY っ	5 (3.33)	47 (31.33)
X X	7 (4.66)	15 (10.00)
XYXY	106 (70.66)	8 (5.33)
XXYY		14 (9.33)

XYX'Y	2 (1.33)	
XY Y		12 (8.00)
XYZV		39 (26.00)
XYZ	1 (0.66)	4 (2.66)
X Y Y	6 (4.00)	
XYン	2 (1.33)	
X Y X	1 (0.66)	
XYZ Y		1 (0.66)
XYXZ		4 (2.66)
XンXン	8 (5.33)	
XYZZ		2 (1.33)
XンY Y	2 (1.33)	
合 計	150 (100)	150 (100)

※ 表について（中国語部分）

- **X型**：「X得・・・」「X着・・・」のように使われている。
- **XY、XX、XYXY型**：「地」を付けて使うことがある。
- **XYXZ、XYZY型**：「Y」と「Z」、「X」と「Z」は反対語である。

表から次の事項が導き出される。

ア. 日本語では、XYXY型が極めて多い（70.66％）が、中国語では、6位（5.33％）

である。

- イ. 中国語では、XY型はもっとも基本的な型であるが、日本語としては、基本的なものではない。
- ウ. 中国語では、XYZV型いわゆる四字熟語は、日本語に対応する重要な手段の一つとして多く使われている。
- エ. 形式としては、両言語いずれも独特の型を持っている。但し、表に例示した型以外には、日本語のほうがはるかに種類が多い。それは、日本語の長音化・促音添加・撥音添加・“り”添加は、きわめて生産的な手続きとなっているからである。例えば、「チラチラ」⇒「チラッ(と)」⇒「チラリ(と)」、「コロコロ」⇒「コロッ(と)」⇒「コロリ(と)」⇒「コロニコロン」などである。
- オ. 中国語では、XX型・XY型・XYZV型が最優勢で、日本語では、XYXY型が大多数を占めるほどの主形式となっている。日本語では、語基2音節型で疊語指向が極めて強いのにに対して、中国語では、語基単音節型で、疊語指向が必ずしも強くないと言える。但し、絶対ないというわけでもない。例えば、「光光」⇒「光溜」⇒「光溜溜」⇒「光光溜溜」、「粘糊」⇒「粘糊糊」⇒「粘粘糊糊」などがある。XX型⇒XY型⇒XYV型⇒XXYV型のように派生するのである。

II. 意味

ここで、「笑う」に関する幾つかの例文を集めて、前述の例文を含め、具体的に意味把握に際して問題になる事項について考えてみよう。

表2 [笑う] = [笑]

日本語	中国語
にこにこ(と)	莞爾、微笑、笑嘻嘻
にこり	眉開眼笑、嫣然一笑
にっこり	微微一笑、嫣然一笑
にやにや(と)	呆笑、暗自冷笑、嗤笑
にたにた(と)	狞笑、奸笑、強作歡顏

にたり	呆笑、笑得人毛骨悚然
にんまり(と)	滿意地一笑、得意地一笑
くすくす	窃窃一笑、背後偷着笑、吃吃一笑
くつつ	吃吃地暗笑
からから	哈哈大笑
けたけた、げたげた	嘻嘻哈哈、笑嬉嬉的
けらけら、げらげら	哈哈大笑、大笑不止

表1と表2の例を見てきたように、以下の事項が窺える。

- ア. [莞爾] [嫣然]のように、古く「漢語」として日本語に入った語の多くは、古代中国の言葉、いわゆる「文言」であって、日本語体系が完全に形成してくるにつれて、それらの「漢語」もそのまま日本語に取り入れられてきた。すなわち日本語に変わった。しかし、日系アメリカ人のこととよく似ている例ではあるが、アメリカ人と言っても、皮膚や顔つきから日本人だと誤解されるケースがしばしばあると同じように、現代の中国語も、時代変遷による変化もはげしいので、前述の言葉は、現代の中国語においては、雅語・文語に属する語彙で、使用上制限があり、文体的制約を強く受けやすい語群である。総じて言えば、同じ漢字であっても、日本語の「漢語」と現代「中国語」とでは、中国語の持っている意義がずっと多いのに対して、日本語の「漢語」はその多くの意義の中1、2義に限定されて用いられていることが多いのである。
- イ. 両言語を比べてみると、中国語には概念的なものが多いと言える。これは、中国語の方が擬音・象音のものが少ないという事実起因しているのである。[哈哈][吃吃]のような、直接「音」をまねた音象詞語が登場する場面は多くない。
- ウ. 日本語の個々に対応するものとされる中国語には、共通のものが多く、日本語では、同一語基からの分出語相互の微妙な違いがあろうが、それは中国語にほとんど訳出不能になってしまう。
- エ. 描写方法においては、中国語の方がより感覺的、日本語の方がより感性的という頭

著な対照性が見られる。これは、擬態語・擬音語は象徴的なものであるから、普通の場合、日本人が直感的に物事を捉える性格を持っていることに理由を求めるべきであろう。日本語の擬態語・擬声語は、あくまで、日本人が感じたモノを表わしているのだから、日本人の独特な発想に裏付けられていると言ってもいい。

オ. 日本語の擬態語・擬音語が、中国語の「数量詞」か「成語」(つまり“四字熟語”)によって表現されることが多いのである。その際、日本語の促音や「り」で終わる非疊語形式の擬態・擬音語は、中国語では、「一(数詞) + 量詞」式に訳されることが多く、疊語形式の擬態・擬音語は、中国語の「副詞」あるいは「成語」に相当する場合が多いのである。

総括

今回は、中日両言語の対照的研究をめざして、擬態・擬音語をとりあげ、実例を通じ、形態・意味を中心に考察を展開した。

対照比較からわかるように、日本語の方が、語数も多く、その生産手段も多様化している。それに対応する中国語の数は少ない。たとえ、対応していても、日本語の擬態・擬音語の味を十分に表現し切れない場合がほとんどである。そんな場合は、大抵は解釈的表現、描写的手法、「副詞+地」「数量詞+地」の形で婉曲的に表わされている。あるいは「成語」(四字熟語)の形に当てはめている。

表音文字(仮名文字)を持つ日本語としては、表記上なんら不足や不便を感じない。しかしながら、中国語では大いに事情が異なる。表音性が生命とも言えるこの擬態・擬音語で、現代中国語の音節の枠内で処理できない口頭語が存在する。それは、新造語や特殊表現形態に期待するしかない。伝統的な表現文字——漢字は新しい局面を迎えている。音韻・意義両面に作られてきた、この古くて新しい漢字になじみやすい借音字か新造漢字を誕生させる時期が既に来たと言えよう。

日本語にこれほど多く擬態・擬音語が集約されていることは、まさに日本人の感性の所産である。擬態・擬音語からも、多様な事態を敏感に把握する日本人の姿勢が伺えるのである。中日両言語の構造だけでなく、二つの民族性にも大いに差異が有りすることを想定させるのである。日本語・日本人の発想の本質を端的に示しているこの言語現象を本格的な研究の必要を強く感じるのである。

末筆ながら、このレポートをまとめるのに、いろいろご指導・配慮いただいた多和田眞一郎先生をはじめ、橋本敬司・峯正志の御二方にも感謝する次第である。

参考文献

- | | | | |
|-------------|------|------------------------------|-----------------|
| 1. 大連外国語学院編 | 1983 | 『新日漢辞典』 | 遼寧人民出版社 |
| 2. 金田一春彦等編 | 1981 | 『新明解国語辞典』 | 三省堂 |
| 3. 天沼寧編 | 1974 | 『擬音語・擬態語辞典』 | 東京堂 |
| 4. 浅野鶴子編 | 1978 | 『擬音語・擬態語辞典』 | 角川書店 |
| 5. 文化庁編 | 1971 | 『外国人のための基本語用例辞典』 | 大蔵省印刷局 |
| 6. 増田アヤ子著 | 1993 | 『すぐに使える実践日本語シリーズ
擬声語・擬態語』 | 専門教育出版 |
| 7. 玉村文郎著 | 1979 | 『日本語と中国語における音象徴語』 | くろしお出版 |
| 8. 五味太郎著 | 1993 | 『日本語擬態語辞典』 | The Japan Times |